（平成23年７月試験研究業務月報）

情　報

「肉用牛の生産を守り発展させるために！」

－付加価値の高い京都産和牛の増産・増頭を目指して－

碇高原牧場では、毎年、和牛農家を対象に「肉用牛経営向上技術発表会」を開催しています。今年は、畜産センター職員が「飼料用イネの活用」、「和牛育種価の活用」、「肉用子牛育成マニュアル」をテーマに話題提供し、講演会では、家畜改良事業団広島産肉能力検定場場長を講師に迎え、「肉用牛交配の基本」と「現場後代検定」をテーマにした講演の中で、交配種雄牛の選定は農家が出荷した産子の枝肉成績を参考にすることを提案していただきました。併せて、６月に九州から導入した改良基礎雌牛の見学会も行うなど盛り沢山な内容の発表会となりました。

講演に聞き入る参加者

パドックに繋がれた九州導入牛を熱心に見る参加者

畜 産 セ ン タ ー
碇 高 原 牧 場

（平成23年７月試験研究業務月報）
試験研究課題：中山間地等における飼料米の産地成立要件の解明（地域資源循環型耕畜連携を支援するための飼料米及び鶏卵生産技術の開発）

研　究

有機酸を添加した未乾燥籾米の給餌ラインへの影響調査

畜産センターでは、飼料米の利用を推進するため、有機酸(プロピオン酸等)を未乾燥の籾米に添加する簡易な飼料米の調整貯蔵技術の開発を進めています。

この技術では、プロピオン酸３倍希釈液を添加すると籾米の水分が高くなるので、鶏の給餌ラインのスクリューコンベア内での籾米の滞留が懸念されましたが、団粒の形成はなく、パイプ内壁への付着、詰まりも見られませんでした。

今後、添加する有機酸の種類や保存期間、スクリューコンベアの搬送速度による影響を確認することにしています。

給餌ラインを想定したスクリューコンベア実験装置で籾米の搬送状況を確認

畜 産 セ ン タ ー

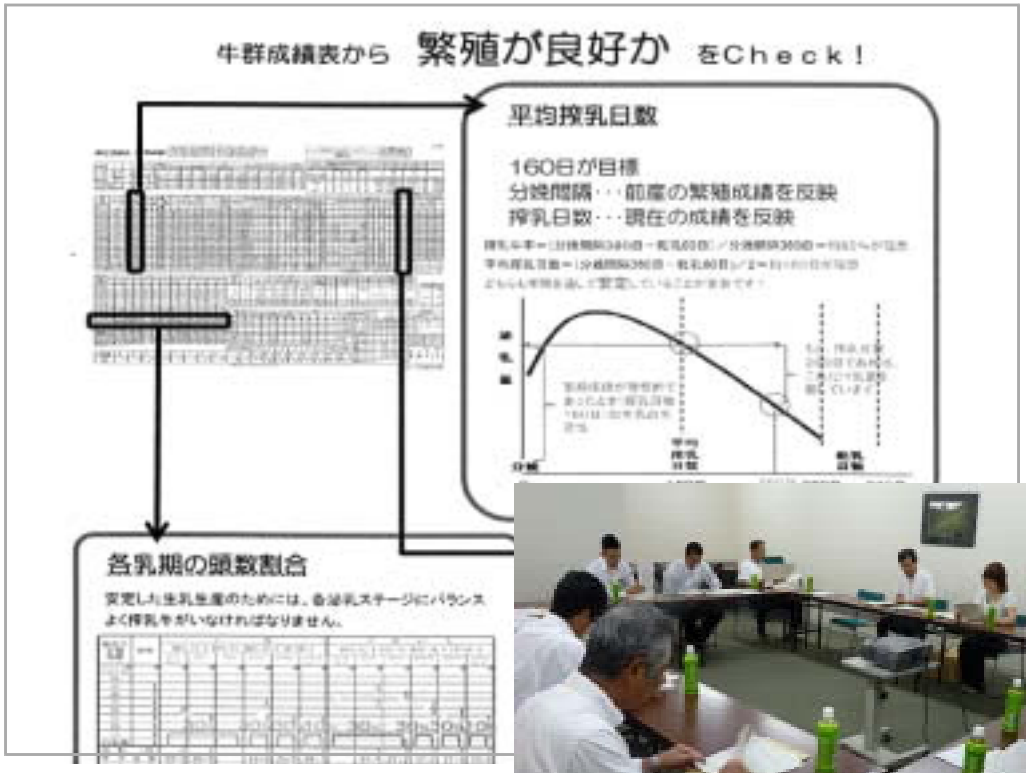
（平成23年７月試験研究業務月報）

指　導

牛群検定成績を活用して酪農経営を改善しよう

毎月酪農家から収集される乳牛の個体毎の乳量、乳成分、繁殖成績などの多くのデータを分析した牛群検定成績は、酪農経営を改善するためのヒントが詰まった宝の山ですが、十分に活用されていないのが現状です。

畜産センターでは、牛群検定成績を有効に活用してもらうため、７月12日に開催された南丹牛群検定組合の研修会で、「検定成績を読むポイント」について解説しました。検定成績から読み取れる各農場の傾向と改善点について、農場毎にポイントを絞ってコメントを書き加えたことで、参加者は自分の農場の成績に熱心に目を通し、その様子から酪農経営を改善する熱意が伝わってきました。



ポイントを絞った解説資料

当センター職員の解説に熱心に耳を傾ける参加者

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年７月試験研究業務月報）

指　導

養鶏場の給水施設改善指導

畜産センターでは、京都市左京区の社会福祉施設が営む養鶏場において、家畜衛生対策と飼育環境改善のため、自動給水施設の設置を指導しました。

当日は、施設職員が自力で施工できるように当センターで設計した給水装置を家畜保健衛生所、京都市産業観光局の職員とともにモデル的に設置しました。

施設職員は、施工と運転管理が簡単で費用が業者委託の1/5程度で済んだこの給水施設により、給水作業が省力化されたことを大変喜んでおられました。

平飼い鶏舎内での自動給水施設設置指導

改善前(汲み置きの水にふんの混入等が懸念)

改善後（新鮮な水が自動的に給水）

畜 産 セ ン タ ー

情　報

内容を工夫して「畜産ふれあい広場」を開催

７月30日、畜産センターでは、畜産や酪農をより多くの府民に知ってもらうため、「畜産ふれあい広場」を府立農業大学校主催の「農大マルシェ」とコラボレーションして開催しました。

今年は、家畜伝染病予防のため搾乳体験や子牛とのふれあいを中止しましたが、来場者は、牛が食べる牧草を包んだラップサイレージへのお絵かきや牛乳パックを再利用した飛行機などの工作を暑さや時間を忘れて楽しんでいました。

牛乳パックで飛行機を工作

ラップサイレージをキャンバスに自由にお絵かき

畜産センター

（平成23年７月試験研究業務月報）

情　報

酪農教育ファーム活動の手法を研修中

一般財団法人「地域公共人材開発機構(京都市)」の馬場さんは、酪農体験などを通じて食や命の大切さを学ぶ食育活動に強い関心を持ち、７月から３か月間、畜産センターで酪農教育ファーム活動の実践研修に取り組んでいます。

馬場さんは、畜産関係の大学で学び、国内外の畜産関係の事業所で勤務した経験と今回の研修成果を畜産の理解促進活動に生かしたいと張り切っています。

「食」を考えるツールとして身近な牛乳パックを使った飛行機の作製

牛肉の取引規格や流通も学びます

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年７月試験研究業務月報）

情　報

ヨーネ病防疫対策を継続実施中

当センターでは、６月のヨーネ病発生以降、部外者の立入禁止、車輌消毒槽などの消毒施設の設置などを徹底しヨーネ病の防疫対策を行っています。

また、ヨーネ病に感染しやすいと言われている生後１年までの子牛の対策としては、分娩後ただちに200m離れた隔離施設に移動し、殺菌済みの凍結保存した初乳を与えるなど、感染予防対策も徹底して行っています。

立入禁止の看板と車輌消毒槽

旧豚舎で隔離飼育中の子牛

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年７月試験研究業務月報）

指　導

地元中学生が牧場の仕事を体験

７月７日、８日の２日間、京丹後市立宇川中学校の３年生４名が、職場体験のため当場を訪れました。えさやりや子牛の手入れ、診療補助などに取り組んだ生徒は、「初めて牛に触ることができ良かった」、「子牛にブラシをかけると気持ちよさそうにしていてかわいらしかった」などの感想が聞け、牧場の仕事に理解を深めたようです。

聴診器で牛のお腹を聴診しました

手入れする生徒と気持ちよさそうな子牛

畜 産 セ ン タ ー
碇 高 原 牧 場

（平成23年７月試験研究業務月報）

情　報

ラベンダー花穂の摘み取り

碇高原牧場には、地元と協働で管理する30アールのラベンダー畑があります。
７月24日にラベンダーの剪定を兼ねた花穂の摘み取りを企画したところ、約150人が来場されました。

ラベンダー畑で花穂を摘み取る来場者

畜 産 セ ン タ ー
碇 高 原 牧 場